

黙示録15－16章：神の最後の裁き

14章には、神の最後の救いの機会が書かれていた。「(御使いが)・・・永遠の福音を携えていた。(6節)」15と16章には、最後の機会を拒んだ人々に対する、神の激しい怒りが書かれている。

「まして、神の御子を踏みつけ、自分を聖なるものとした契約の血を汚れたものとみなし、恵みの御霊を侮る者は、どんなに重い処罰に値するか、考えてみなさい。私たちは、『復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする。』、また、『主がその民をさばかれる。』と言われる方を知っています。生ける神の手の中に陥ることは恐ろしいことです。(ヘブル 10:29-31)」

これからの箇所を読むとき、この怒りから私たちを救うために、キリストが身代わりになってくださったことを考えよう。

「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。(1ヨハネ 4:9-10)」

15章：天の情景

1－4節：モーセの歌と小羊の歌

「火の混じったガラスの海」天の御座のところは、ガラスの海のようにになっている(4:6)。火は、これから地上に下す、神からの災害を表している。

「獣と、その像と、その名を示す数字とに打ち勝った人々」獣の国で、獣を拝まなかったので殺された人々。

「モーセの歌」とは？ — 出エジプト記 15章

神はイスラエルを、エジプトに災いを下すことによって救われた。

- 1) 血、2) かえる、3) ぶよ
- 4) あぶ、5) 家畜への疫病、6) 膿(うみ)
- 7) 雹(ひょう)、8) いなご、9) 暗闇
- 10) 初子の死

神は紅海を分けてイスラエルを渡らせた後に、エジプト軍を海の中に沈められた。

それで民とモーセが、海のほとりで、神の救いの業を歌った。

エジプト＝この世、パロ＝悪魔、紅海を渡る＝この世から救われる

→ 同じように殉教して天にいる人々が、ガラスの海のほとりで、自分を殺した者たちに神が裁きを下すことを歌っている。

歌の内容： 1) 神がすべての人の支配者 2) 神は真実で、正しい

1)「それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが、ひざをかがめ、すべての口が、『イエス・キリストは主である。』と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。(ピリピ 2:10-11)」

2) 黙示 16章 5節、16章 7節、19章 2節、19章 11節

a) 世の中では、酷いこと、悲しいこと、聞くに耐えないことが起こっている。多くの人が、「神が愛ならば、

なんでこんなことを許されるのか？」と疑問に思う。

b) 私たち個人の生活の中で、理解できないことが起こる。「神様、なぜですか？」と聞きたくなる時がある。

→ 質問してもよいが、神の良さ(goodness)、神の正しさ(justice)を疑ってはならない！

ある人の言葉：「知らないことのために、既に知っていることを放棄してはいけません。」

天国に行ったら、必ず「やはりあなたのなされることは正しく、真実です」と言うことだろう。

5-8節：天にある聖所

前にも話したように、地上の幕屋と神殿は、天にあるものの模型である(ヘブル 8:5)。

出エジプト記 25 章から始まる幕屋の設計図を読むとき、天の御座の姿を見ることができる。

これまでの神の災い

第一の封印から第七の封印(6章、8章)

第一のラツパから第七のラツパ(8、9、11章)

そしてこの第七のラツパの中に七つの鉢がある。

16章：七つの鉢

1) エジプトに下った災いに似ている 2) 第七のラツパの災いの続き

第一の御使い：悪性の腫れ物

広島、長崎で被爆した人の多くは、放射線を受けたからであった。皮膚がただれて死んだ。

第二の御使い：海の生き物のすべての死

ラツパの災いの時は三分の一のみが死んだ。

第三の御使い：水源が血に変わる

ラツパの災いの時は、これも三分の一のみであった。

「その血を彼らに飲ませました」

「あなたがたを苦しめる者には、報いとして苦しみを与え(2テサロニケ 2:6)」

「祭壇が…」黙示録 6:9

第四の御使い：太陽による炎熱

砂漠の太陽熱でさえ、ものすごく熱いのに…。今日あるオゾン層破壊。

驚くべきことは、「神の御名に対してけがしごとを言い、悔い改めて神をあがめることをしなかった」!

第五の御使い：暗闇

エジプトの暗闇の災いに似ている。

ここでも「けがしごと」を言い、「悔い改めようとしなかった」!

第六の御使い： ハルマゲドン（第三次世界大戦の始まり）

「ユーフラテス川」シリアの北部からイラクに向かい、ペルシヤ湾に流れ出る巨大な長い川

かつて古代文明(メソポタミア文明)が栄えたところ

これが西洋と東洋を分け、自然の要塞となっていた。

「日の出るほうから来る王たち」インド、中国、日本、朝鮮など、すべての国々の軍が進出する

現在、ユーフラテスの水量が非常に少なくなっている。

「竜の口、獣の口、偽預言者の口」黙示録 13 章参照。

竜＝悪魔、獣＝反キリスト、偽預言者＝もう一匹の獣

「かえるのような汚れた霊」国々が進軍するとき、停留し、また進んでゆく姿を描いているか？

「悪霊どもの霊」ヒトラーは、魔術師の影響を受けていた。

「神の大いなる戦いの日」数多くの他の預言もある。例：詩篇2篇

「なぜ国々は騒ぎ立ち、国民はむなしくつぶやくのか。地の王たちは立ち構え、治める者たちは相ともに集まり、主と、主に油をそそがれた者にと逆らう。『さあ、彼らのかせを打ち碎き、彼らの綱を、解き捨てよう。』天の御座に着いておられる方は笑う。主はその者どもをあざけられる。ここに主は、怒りをもって彼らに告げ、燃える怒りで彼らを恐れおののかせる。『しかし、わたしは、わたしの王を立てた。わたしの聖なる山、シオンに。』(1-6 節)」

「盗人のように来る。目をさまして・・・」

「しかし、あなたがたは、やがて起ころうとしているこれらすべてのことからのがれ、人の子の前に立つことができるように、いつも油断せずに祈っていなさい。(ルカ 21:36)」

「ハルマゲドン」＝メギドの丘

イスラエルの真中を東西に走っている、イズレエル平野がある。そこに古代都市「メギド」の遺跡がある。聖書時代から近代に至るまで、そこは世界大国が勢力争いをした場所であった。

第七の御使い： 大きな地震、バビロンの破壊、雹

「事は成就した」同じ言葉を、イエス様は十字架の上で語られた(ヨハネ 19:30)。

十字架では救いの完成を、ここでは神の裁きの完成を話している。

地震： 天変地異が起こることによって、環境が完全に換えられ、神の国が始まる。

「わたしは、もう一度、地だけでなく、天も揺り動かす。(ヘブル 12:26)」

バビロンの破壊： 17、18章に詳細

雹： 1タラント＝35キログラム！！

最後も極めつけ → 「神にけがしごとを言った」